



JASWHS 公益社団法人 日本医療社会福祉協会
Japanese Association of Social Workers in Health Services

東京都新宿区住吉町 8-20 四谷ヂンゴビル 2F

災害対策本部 (03)3351-5038 アドレス dsstsw@jaswhs.or.jp



< 目次 >

1. 災害支援活動協力員募集と寄付金等のお願い
2. 今後の会議・報告会の予定
3. 石巻・現地情報
4. 今後のソーシャルワーク活動について
5. 支援者のグリーンワーク的サポートのご案内

< 1. 災害支援活動協力員募集と寄付金等のお願い >

9 月の人員は確保されました。協力員の方に感謝申し上げます。

10 月以降も支援が続きます。多くの方の協力をよろしくお願い致します！

10 月

日付	事務所	現地	日付	事務所	現地	日付	事務所	現地
1 [Sat]	3	2	11 [Tue]	3	2	21 [Fri]	3	2
2 [Sun]	休	2	12 [Wed]	3	2	22 [Sat]	3	2
3 [Mon]	3	2	13 [Thu]	3	2	23 [Sun]	休	2
4 [Tue]	3	2	14 [Fri]	3	2	24 [Mon]	3	2
5 [Wed]	3	2	15 [Sat]	3	2	25 [Tue]	3	2
6 [Thu]	3	2	16 [Sun]	休	2	26 [Wed]	3	2
7 [Fri]	3	2	17 [Mon]	3	2	27 [Thu]	3	2
8 [Sat]	3	2	18 [Tue]	3	2	28 [Fri]	3	2
9 [Sun]	休	2	19 [Wed]	3	2	29 [Sat]	3	2
10 [Mon]	3	2	20 [Thu]	3	2	30 [Sun]	休	2
						31 [Mon]	3	2

* 数字は必要な人数・ は足りていることを表す

(9 月 12 日現在)

支援活動協力員登録人数(9月14日(月) 現在)

- ・ 現地支援活動協力員 : 168名
- ・ 事務所支援活動協力員 : 91名

皆様お忙しい中のご参加で人員が不足しております。ご協力頂ける方は下記までご連絡下さい。

[災害対策本部\(03-3351-5038 又は dsstsw@jaswhs.or.jp\)](mailto:dsstsw@jaswhs.or.jp) 平日・土・祝 10～17時

メールでのご連絡の際は、件名に「(現地)または(事務所)災害支援活動協力員希望」とご記載下さい。

現地支援活動について

宮城県石巻市の避難所「遊楽館」へ、1日4～5名を目標に派遣を行っています。

***10月以降は「医療法人鉄祐会 祐ホームクリニック」が活動拠点となります。**

- ・ 車を運転出来る方が望ましいですが、複数で行動していますので、運転できない方もご相談くだされば、対応できます。
- ・ 引き継ぎ等の関係により、前後の移動日を含めず、中3日以上活動をお願いしたいと思います。できれば1週間来ていただければ、理想的です。

事務所支援活動について

活動日程 : 月～土、祝日 の 10時～17時 半日での参加も可能です

活動内容 : 主に現地支援活動協力員の派遣調整、現地とのやりとり、電話・メール対応、事務処理

1日4名を目標にご参加頂いております。

財政的に厳しい状況が続いているため、できるだけ事務所に来やすい方を希望します。事務所協力員に関しては交通費1200円上限とさせていただきます。多数ご協力をお願いします。

寄付金の振込口座:郵便振込口座

資金が底をつきつつあります。皆様の更なる協力をお願い申し上げます。

口座名義 : 日本MSW協会災害支援金

口座番号 : 00100-1-89515

支店名 : 〇一九(ゼロイチキユウ)店(019)

口座種別 : 当座

他の金融機関からお振り込みいただく場合には下記のようにお願いします。

ゆうちょ銀行 口座種別 : 当座預金 支店 : 〇一九(読み方:ゼロいちきゅう)店

口座番号 : 89515

備考 : お振り込みいただく金額に制限はございません。

ご自分のお名前とご連絡先をご記入ください。

お振込手数料は、各自でご負担ください。

* 寄付の用途については、当協会の行う東日本大震災災害救援活動に使うことが決定しています。

活動内容の掲載について

石巻以外の地域で活動している方や被災者を受け入れている機関などの活動を本紙に掲載したいと思います。ご協力いただける方は[災害対策本部](mailto:dsstsw@jaswhs.or.jp)までご連絡ください。

< 2 . 今後の災害支援対策会議・報告会の予定 >

日 時 : 2011 年 9 月 28 日 (水) 19 時 ~ 21 時

場 所 : 日本医療社会福祉協会 会議室

申込み : 不要 (直接会場へお越し下さい)

< 3 . 石巻・現地情報 >

石巻での活動内容 **10 月以降は内容が変わります**

- ・ 遊楽館利用者への相談支援
- ・ 遊楽館から退所した人へのフォローアップ
- ・ 地域の保健医療福祉機関のニーズ把握と対応
- ・ 福祉関係職種との連携と協働 (カンファレンス)
- ・ 退所サマリー、経過サマリー作成業務
- ・ 仮設入居時同行、引っ越し同行
- ・ 仮設住宅での支援活動
- ・ 在宅医療を担う医療機関との連携

宿泊場所

5 月 23 日より、2LDK のマンションを宿泊場所として使用開始しました。

* JR 東北新幹線 陸羽東線 古川駅より徒歩約 9 分

* 駐車場 1 台 (原則移動車 1 台以外は、遊楽館に駐車となります)

* 布団はありますが、シーツ・枕カバー、タオルなどのご持参下さい。

マンションでの生活用品の寄附を頂きました。ありがとうございました。

寄付 : 洗濯機 (45L) ・テレビ (地デジ対応 32 型) ・テレビ台・炊飯器・電子レンジ

現地移動車両

ガリバーインターナショナル社様のご厚意により、当会へ自動車を 1 台貸与していただいています (保険や車検関係はガリバー社が負担してくださっています)。

現地ボランティアの皆様の足としてご利用いただけます。

詳細とお願いは、次の通りです。

- ・ 車種 トヨタ「イスト」 ナンバー「野田 501 ち 3967」 銀色
- ・ 利用される場合には、安全運転はもちろんですが、車の調子の確認、ガソリンの補給 (給油したら協会に請求してください)、および鍵の管理をお願いします。
- ・ 駐車違反・盗難等に注意してください。

携帯電話

ソフトバンク様より、当協会へ 20 台の災害用電話の無料貸し出しをしていただいています。7 月 1 日より、現地および、協会本部はソフトバンクの携帯電話を利用しています。

< 4 . 今後のソーシャルワーク活動について >

遊楽館閉鎖後の医療ソーシャルワーカーの活動を考える

～ 河南地域の仮設住宅周辺的生活環境の情報収集より ～

石巻現地責任者 草水美代子

(西片医療福祉研究会)

皆様、石巻の災害支援活動にご理解とご協力をいただきましてありがとうございます。福祉避難所「遊楽館」の閉鎖は秒読みです。避難所を退所された方々の多くは、仮設住宅で生活を開始しています。石巻市では約 6000 戸の仮設住宅を建設予定だそうです。

さて、私たちが 4 月から活動を続けてきた遊楽館の入所者は、9 月 8 日現在、26 人まで減少してきています。一時は 180 人の方が避難していました。その時のことが想像できないくらい、アリーナは閑散としています。石巻市は、避難所閉鎖について、9 月末日を目標にしています。

東日本大震災による津波被害の実態から、石巻市内の沿岸部等は危険地域と指定されました。結果として、仮設住宅建設用地の確保は容易ではない状況にありました。元の場所に、土台が残っていれば改修して居住することは自己責任とされ、許されますが、新たな建築許可はありません。石巻市が仮設住宅を建設しようとした時の困難は、「土地の確保」であったといえます。苦肉の策として、公園の一角や郊外の工業団地などに建設されています。また、トゥモロー・ビジネスタウンは、災害支援の自衛隊の拠点であったところを整地し、石巻市全体の半分に当たる約 3000 戸の仮設住宅が予定されており、竣工予定は 9 月末です。避難所の閉鎖の時期と同じであり、スムーズに入居が終了するのかどうか不安が残ります。

現在、遊楽館に入所中の 26 人中、19 人が仮設住宅を希望しており、未だ建設中の住宅もあります。入所中の方の事情は様々です。希望する仮設住宅(旧市街:利便性がよい)に落選した人、当選したにもかかわらず、何らかの理由でキャンセルを繰り返している人などです。キャンセルの理由とは、一人暮らしに不安がある、住宅が狭い、当選した仮設住宅の場所が不便なところにあるなどです。また、躊躇しているうちに、旧市街の仮設住宅の抽選はほぼ終了してしまったなどさまざまです。現状は、旧市街から離れた河南・河北・桃生地域の仮設住宅を選択せざるをえない状況にあります。このような背景の中、ソーシャルワーカーとしては、個別化した対応を心掛けてきました。一足飛びにはいきませんが、そのことにより徐々に現実を受け入れ始めています。

今回、情報収集をした仮設住宅は、元々宅地ではなかったところばかりで、かつ、郊外にあり生活環境としては未整備なところなどです。ソーシャルワーカーとしては、期限までに退所させればよいのではなく、一人ひとりの状況を理解し、希望や考えを伺いながらグリーフワークの一環として支援を続けています。そのため、多くの人員を必要としてきました。

9 月 4 日に、現地ボランティア活動に参加してくださった 4 人の会員(亀田総合病院 中村さん、初台リハビリテーション病院 東さん、大倉山記念病院 梶尾さん、大野さん・いずれもリピーター、長期活動者の皆さんです。)の方に、仮設住宅の周辺を回っていただき、現状報告をお願いしましたのでお一読ください。仮設住宅への支援活動に関して皆さんと一緒に考えていきたいと思えます。

河南・河北・桃生地域の仮設周辺の環境状況について

メンバー：中村（亀田総合病院） 東（初台リハビリテーション病院）

梶尾（大倉山記念病院） 大野（大倉山記念病院）

日 時：平成 23 年 9 月 4 日(日)

視察先：須江農業団地地区・旭化成東光パワーデバイス社有地・押切沼運動公園

矢本消防署河南出張所跡地

仮設住宅・周辺環境の現状

<メリット>

- ・ 津波の被害を受けない場所での生活が可能
- ・ 避難所よりプライバシーが保たれる
- ・ 人・世帯が密集しているため、緊急時の対応が可能(独居高齢者等)
- ・ 世帯数に応じた間取りの確保が可能
- ・ 仮設場所によってはコンビニ・スーパー等利便性が良い
- ・ 玄関先までのスロープ設置がされている箇所があり、車椅子利用可



<デメリット>

- ・ 平地が砂利のため、要介護者の歩行等に支障がでる可能性あり
- ・ 基本的にはバリアフリー機能がない(玄関の上がり框、部屋窓と物干竿の位置に若干の距離あり段差解消機などが必要)
- ・ 仮設数によっては住宅間の幅が狭いため、音・声漏れの可能性あり、プライバシーが保たれないとも捉えられる
- ・ 建設場所によっては、住宅と駐車場が離れている、スーパー等の周辺施設が全くない
- ・ 仮設住宅地内の集会場にかかる鍵が市町村管理のため利用しづらく、入居者間の交流やコミュニティ形成のきっかけが作りにくい



仮設に入居する際には、家電6点(冷蔵庫・洗濯機・テレビ・炊飯器・電子レンジ・電子ポット)や必要備品が支給されるため、最低限の生活水準は保たれ、生活に必要な設備・備品購入の費用負担や手間は省くことが可能。ただ、仮設建設地区が旧市街地から離れているため、生活する上での利便性は低い印象を受ける。(特に河南地区の建設区域)移動は車中心のため、高齢・障害があり自力で対応できない場合、買い物・受診等での日常生活支援や移動手段の確保が必要だと思われる。(巡回バスが9/1から開始されているが、1日に大橋通り先回り3便・蛇田先回り3便のみである)

また、バリアフリー仕様の箇所も限られるため、状況に応じた住宅改修・福祉用具利用の検討も考えられる。



入居者は旧市街地在住の方を中心としているため、これまでの周辺施設の利便性を考慮すると個々人・世帯の生活の質は下がるだろう。また、石巻市の合併等の社会背景より、これら地区での生活自体への抵抗もあり、コミュニティの形成も簡単ではないように思える。

これらを考慮すると、仮設住宅入居後のサポート拠点の整備や関係機関の継続的介入が、入居者の生活を支えていくために必要ではないかと感じた。

上記の参加メンバーの報告から、退所後の仮設住宅への支援の必要性がご理解いただけたのではないかと思います。

石巻市は、7月1日に、仮設住宅運営管理室という部門を開設し、専門職の活動は、管理室が一括管理しています。連携相手としては、健康推進課、介護保険課、地域包括支援センター、居宅介護支援センターなどとなります。既に、それぞれが、健康増進法や介護保険法などで役割が決められています。私たちは、従来、地域割をして保健・医療・福祉活動をしていた専門職の後方支援として行う活動になります。特に仮設住宅における活動としては、医療ソーシャルワーカーとしての単独活動はできないシステムになっています。(防犯、住民のプライバシー尊重、重複の援助による混乱などが背景にあると思われます。)

福祉避難所での支援は、終結期を迎えつつあります。次の活動は、仮設住宅の支援活動、地域医療への貢献、遊楽館退所者へのフォローアップが必要だと、協会に報告をしてきました。

地元の専門家の支援を通じて石巻市民に貢献できるような活動としていくことが必要だと思っております。特に、医療ソーシャルワーカーの独自性を活かせるほうがよいでしょう。医療福祉システムの復興段階に関し

て、何をどのように支援していけばよいのでしょうか。

現地にいると、現地の専門家も外部の専門家への対応で、ストレスがたまっていくことのあるのではないかと感じることがあります。外部の人間の自己満足に陥ることなく、被災地の立場に立って、専門職集団として適切な後方支援活動ができるような模索が大切だと思います。

一方で、あまりにも広範囲の災害であるが故に、支援活動が行われていないエリアもあり、仮設住宅運営管理室からは、できるだけ早い時期に仮設住宅の集会所で相談会を開催してほしいという話も頂戴しております。現在、協会の人員配置としては、避難所閉鎖に向けた利用者へ支援のための配置で精いっぱいであり、仮設住宅への支援ができずにいることもご報告しておきます。

遊楽館という枠を外れた地域でのソーシャルワーク活動は、別の意味での難易度が高く、地域に根差した活動とするには、現地の専門家とのネットワークなしにはできないと実感しています。

< 6 . 支援者のグリーンワーク的サポート・セッションのご案内 >

日本医療社会福祉協会として、災害支援にかかわる支援者支援が重要である認識より、笹岡前会長と、佐原会長がルーテル学院大学福山教授にサポート・セッションの実施の要請をし、現地におけるグリーンワーク的サポートのセッションが実現しました。(資金は、すべてチャイルドファンド・ジャパンがご負担くださっています)

現地ボランティアの方は、現状を目の当たりにして気持ちをひきずったまま帰る、また、帰ってから自分を責めたり、不全感を感じたりなどします。このことは、現地に来て支援者自身が影響を受けていることを意味し、専門家も支援を必要としていると受け止めるべきです。

「現地に行く事に意味がある」「現地に行くボランティアも被災をする」「自分の貢献内容を明確にする」「できることの限界を知り対処する」等…。セッションを通じて現地の活動に関する理解を深めていくことにより、現地ボランティアをサポートすることを目的としています。

副読本としてポーリン・ボス著「あいまいな喪失(さよならのない別れ 別れのないさよなら)」が、チャイルドファンドからいただける特典があります。

*既に7月24日、8月14日・15日、9月4日の4回は終了しております。

予定 : 9月18日 午後3時間

対象 : 現地で活動をされている方